

症状および兆候

文献

門田牧子, 野崎真奈美. 高齢患者における足浴・マッサージによる浮腫軽減の効果について. *看護人間工学研究誌*. 2009; 9: 43-48. 医中誌 web ID 2011046555

1. 目的

高齢患者における足浴・マッサージによる浮腫軽減効果の評価

2. 研究デザイン

ランダム化比較試験 (cross over) (RCT-cross over)

3. セッティング

A 病院の回復期リハビリテーション病棟

4. 参加者

60 歳以上の回復期にある入院患者で両下肢に浮腫が確認された 9 名 (男 3 名、女 6 名、年齢 73.1 ± 10.6 歳)。疾患別内訳は、脳血管障害後遺症 8 名、恥骨骨折 1 名。

5. 介入

Arm 1: 足浴群 9 人

Arm 2: マッサージ群 9 人

Arm 3: 足浴+マッサージ群 9 人

足浴は車いす座位にて $39^{\circ}\text{C} \sim 40^{\circ}\text{C}$ のお湯に両足を足底から 20 cm の深さまで 20 分間つける。マッサージは足背部、足底部、足指、足関節周囲に対し軽擦法と揉捏法を左右各 10 分施行。

6. 主なアウトカム評価項目

下腿周径、足背周径(最大幅部)、アンケートによる主観的評価 (8 項目、5 段階尺度、40 点法)

7. 主な結果

下腿周径の平均値は、足浴群で 2.8 mm 増加し、マッサージ群で 0.2 mm、足浴+マッサージ群で 1.8 mm それぞれ減少した。足背周径の平均値は、足浴群で 7.2 mm 増加、マッサージ群で 1.8 mm、足浴+マッサージ群で 2.3 mm それぞれ減少した。下腿周径の分散分析では足浴群とマッサージ群、足浴群と足浴+マッサージ群の各群間において有意差 ($p < 0.01$) を認めた。足背周径でも同群間で有意差 ($p < 0.05$) を認めた。また、主観的評価の得点平均は、足浴群 25.2 点、マッサージ群 26 点、足浴+マッサージ群 35.2 点だった。

8. 結論

下腿周径・足背周径は足浴群よりマッサージ群、足浴+マッサージ群が有意に減少したことから、マッサージ施行の有無が浮腫の改善に影響を与えることが示唆された。

9. 論文中の安全性評価

記載なし。

10. Abstractor のコメント

高齢者の下肢浮腫に対する有効性を足浴だけの群とマッサージだけの群に加えて、足浴とマッサージを複合させた介入群の 3 群間で比較検討した研究であり興味深い。ただ、記載がないので不明だが、マッサージ施術は術者を同一人にしなければ刺激の仕方や量に相当の誤差が生ずる可能性がある。また、メジャーを用いた周径の計測は測定者を固定にした上で測定点を明確にしなければ測定結果を正しく比較することはできない。浮腫を定量化するには水槽を用いた水置換法による体積測定が有用である。症例数を増やした上で、方法に改良を加えた今後の研究に期待したい。

11. Abstractor and date

藤井亮輔 2015.3.24